



安心安全なまち 美しいまち 住みつづけたくなるまち

小野学区 自治通信

小野学区自治連合会・小野学区連絡協議会

新しいまちづくり はじまる



住民、自治会、関係団体などがさまざまな機会と形で協働してまちづくりをはじめめるための新しいシステムづくりが始まりました。まもなく「小野学区まちづくり協議会設立準備会」が活動を開始します。

まちづくり協議会設立に向けて

2020年度は協働のまち、新しいまちづくりが本格化するその転換点だったと言えるほどの変革の年度でした。

2019/11/13の天津市議会「コミュニティセンター条例」可決や新春新市長の誕生は一つの区切りでした。以前から新しいまちづくりについては住民自治の観点から大きな関心事でありましたからまちづくり協議会やコミュニティセンターのあり方について検討、意見交換を行っていました。2018年度に「連絡協議会」が復活したのをきっかけにまもなく自治連「事務局」を形成することが出来き、いくつもの重要なことが連続的に企図されてきました。その一つが2020年度に取り組んだ「連絡協議会」の解体的発展——まちづくり協議会の設立とそれを前提にした公民館の自主運営試行に取り組むことでありました。



2021/04/01 小野支所前のさくら

2020年度は特に定期的に、かつ臨時的に新しいまちづくりの検討に調査や議論を重ねました。その中心は「連絡協議会」の再生とそれにつづくまちづくり協議会発足に向けての取り組み。併せて同時的な課題である「公民館の自主運営」の具体的な取り組みの推進、つまり「自主運営試行」のための諸作業の開始でした。これには多くの時間が必要でした。自治協働課との再三にわたる会合・打ち合わせを行いました。山中比叡平自治連合会にも研修の機会をお世話願ひ、具体的なイメージづくりや現れるであろう課題と対処について多くの示唆を得ました。幸い「連絡協議会」では、テーマである「さらなる新しいまちづくり」の基本的な考え方——小野学区自治連合会を中心とした小野学区住民・団体の協働化をとおして諸課題を解決していけるような体制としてのまちづくり協議会設立とその住民自治組織と市行政との協働化を図るために2021年度より「公民館及びコミュニティセンターの自主運営試行」に取り組むことを圧倒的な賛意をもって採決しました。

公民館の自主運営試行 開始



2021/4/1、9時。小野支所のカウンターの斜め前に設置された公民館の受付には「自主運営試行」の従事者である高田奈津枝さんの姿がありました。高田さんは公務員ではありません。向こう1年間、自治連(運営委員会)が雇用する公民館運営職員であり、市の専門員と協力して仕事をされます。よろしくお願ひします。

執務は 月・火・木・金 9:00~13:00(基本) です。

これによって、いよいよ自主運営の試行がはじまり、小野学区のまちづくり協議会結成への門が開かれました。

「小野学区まちづくり協議会設立準備会」始動!! 5月29日の予定

協働のまちづくり、新しいまちづくりが本格化するのです。

2020年度はそのターニングポイントだったと断言します。

2021年度はさらに、充実と確かな飛躍への序章となることでしょう。

詳しい情報はHP「小野学区自治連合会」に2021年度議案書をはじめいくつもの資料があります。

小野学区自治連合会新体制決まる

2021(令和2)年小野学区自治連合会役員・役職

役職	自治会役職	氏名	関係団体役職	
会長		岩田 和彦	自主防災会会長	
	朝日1	会長	岡山真理子	
		副会長	近藤慶次郎	人推協副会長
	朝日2	副会長	西田 俊夫	社協副会長
		会長	内田 成康	* 環境
		事務局長	徳岡 厚	
	副会長	湖青1	会長 高野 裕	
		副会長 細川 幹夫	自主防犯副会長	
		副会長 新澤 幸江	青少年育成副会長	
副会長	湖青2	会長 西村 健		
		副会長 鎌田 光三		
		副会長 佐藤 秀男		
副会長	水明1	会長 廣部 康平	自主防災会副会長	
		副会長 仲 慎司		
		副会長 天野 正人		
副会長	水明2	会長 澤田とし子		
		副会長 青木 慶一		
		副会長 土井 千鶴		
会計				
会計監査		戸嶋 祥浩	(前年度自治連会計)	
		山本 啓一	(元湖青2自治会長)	
事務局		小倉 東一	(元水明1自治会長)	
		庭山 純忠	(自主防災会統括部長)	
		内田 成康	(朝日2自治会長)	
		中西 達	(自主防災会相談役)	
相談役				

*環境：環境整備推進委員代表、ごみ減量と資源再利用推進会議担当学区代表

2021年度小野学区自治連合会総会を4月10日(土)に予定していましたが昨年につづき新型コロナの感染拡大の状況を受けて書面決議となりました。有効票31全て賛成の結果、議案は採択されました。(議案書はHPにあります)

総会に代え、その日、新年度の会長・副会長だけで短時間の臨時定例会を開催して自治連合会の役員と関係団体役職を左の一覧のとおり決定しました。

まちづくり協議会設立に向けて多くの協議事項が想定される重要な時期であります。しかしながら新型コロナの感染拡大は未だ収まる傾向を見せず、ワクチン接種の進捗、計画、その効果がまだまだ明確にならない状況にあります。昨年でもでき得る対策を施しつつ準備と協議を重ねてきました。十分に時間や回数を確保できませんが役員の方々をはじめ住民皆様方には現況の厳しさの中での必要最低限の活動を理解していただくために、広報活動をよりタイムリーに発信し、課題の共有を強めたいと思っています。月刊を目指しています「自治通信」やHPに注視いただければ幸いです。



手洗い・消毒を徹底しましょう！



再び まちづくり協議会はなにを目指そうとしているのか？

この6年間、自治連合会は関係団体といくつかの協働事業を展開してきました。その一つが「小野学区安心安全事業基金」まちづくりの取り組みでした。小野学区のまちづくりは牛歩の如くではあるが既に進行しており、他学区からも注目されています。自主防災マニュアルや防犯カメラ、防災備蓄に関する問い合わせはいくつかあります。この間、様々の協議を、とりわけ各事業や取り組みを始める際には多くの時間を費やしました。その活動の中で大きな課題が浮き彫りになりました。何よりもそれぞれの活動が孤立的で、つまり関係団体と事業連携をしながら、残念ながらその他の関連団体及び学区全体と課題意識の共有化や深化が不十分であったのです。そうした課題を克服する方法、それがわたしたちが築こうとするまちづくり協議会なのです。

例えば小野学区の防災体制一つをとっても、マニュアルはありますが具体的にどの組織が何を分担し、また誰が、何を、どのような時系で、どう行動するのか？ それを話し合う場がありませんでした。民児協が要援護者訓練の形で防災訓練に参加したのも会長と自治連で申し合わせ、自主防災会に報告する程度の連携に終わり、関連するほかの団体とは協力を頂くための協議の場を持つことができませんでした。福祉事業を小野学区内で一層内実化するにはどうすればいいのか、関連団体はどう連携すればいいのか、地域、関係団体と全体的に協議決定する場がなかったのです。

わたしたちが築こうとしているまちづくり協議会はそこをめざそうとしています。

小野学区自治連空地空家対策事業

庭や空地の 草刈り・剪定 申込 受付中

概要

- ① 料金 10,000円 (1チーム3人・3時間)
- ② 空地(6、70坪程度)の除草(機械刈り)
- ③ 庭の除草清掃(手作業) 簡単な剪定(委細相談)
- ④ 依頼時に年間登録料 5,000円を申し受けます(自治会員は免除)
- ⑤ 小野学区内の物件に限る 物件の所有者であること



ご希望の方は、申込用紙(登録票)を077(594)3073へファクスしてください。申込用紙(登録票)は小野学区自治連合会のホームページ <https://www.onogaku.com/archives/2378> からプリントアウトできます。小野支所にも置いています。